

すぎのこつうしん

平成28年9月 古川東町カトリック保育園

『お年寄りを大切にする心を育みましょう』

台風が過ぎ去り、幸いにして昨年のような洪水にはならず、ほっとしているところです。しかしニュースを見れば北海道が大部被害にあっているようで心が痛みます。

暦の上では立秋を過ぎています、まだまだ暑く体調を崩してしまうお子さんも多いようです。休日には無理な計画は立てず、家でゆっくりと関わりを持つ事も大切かと思います。料理の手伝いや洗濯、掃除の手伝い等そういう場でも生きる力を育んでいけるのだと考えます。大人には家事をうまくこなす力と知恵があります。それを子ども達に丁寧に伝えていきましょう。その姿を見ることでお父さん、お母さん、大人はすごいなと思う心が芽生えてくるのではないかと思います。お年寄りに限らず、目上の人たちに対して尊敬の気持ちが育まれていくのではないのでしょうか。誰に対しても優しい気持ちを持ち接することができるように成長して欲しいと願っています。

9月は運動会があります。今年もまたいろいろ趣向をこらしたものを準備しているようです。たくさんの励ましと声援をお願いします。

< 園長 平野 義子 >



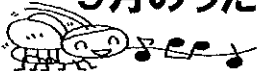
9がつうまれのおともだち

☆おたんじょうび おめでとう☆



♪笑顔のたね♪

9月のうた



きょうもみんなですこしずつ みんなですこしずつ

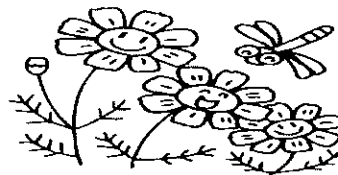
えがいのたねまいて はなさかさうよ

えがいのたねまいて はなさかさう

ないている人がいたらそとてをつなぎ だいじょうぶってきもちをいえたなら…(※くいかえし)

♪とんぼのめがね♪

- ①とんぼのめがねはみずいろめがね
あおいおそろをとんだから とんだから
- ②とんぼのめがねはびかひかめがね
おてんとさまをみてたから みてたから
- ③とんぼのめがねはあかいろめがね
ゆうやけくもとんだから とんだから



< お年寄りの方々を大切にする心を育みましょう >

お年寄りを敬う事=大切にする事

数年前、祖父母の仕事をしていた頃の話を知ったことがあります。今と違って今共働きが主流ではない時代にも関わらず祖母は事業を起し仕事に励んでいたそうです。また、社員との交流を大事にしていたようで家族ぐるみで季節のイベントを楽しむことが多く、いまだに「あの時は…」と感謝の言葉をいただくことがあります。祖父母の努力があってこそ、今の自分たちがあることを考えさせられました。

現在、仕事からは退き身体も弱くなってしまった祖母。それでも孫やひ孫の体を気遣ったり成長を共に喜んでくれています。つい忙しくしてしまい顔を出しに行くことが減りかちですが、時間を見つけて話し相手になったり、身の回りの手伝いをしてあげることで感謝を伝えていきたいと思ひます。また、その姿が子どもにも伝わり一緒に行うことでお年寄りを大切にする事が自然と身につけてくれたらと思ひます。

(ひよこ組担任 鏡部 紗希)



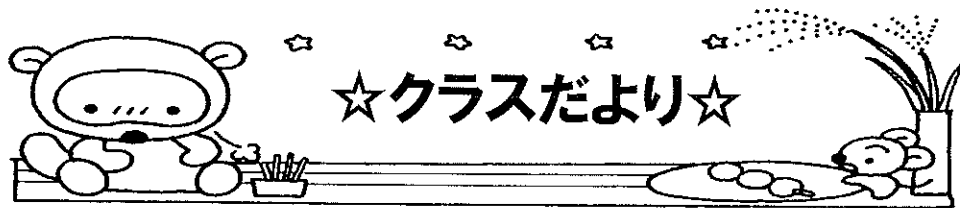
☆9月の予定☆

6日(火) 運動会総練習 8日(木) 静修の日(3・4・5歳児)

9日(金) 誕生会 17日(土) 運動会

23日(金) サッカー教室(4・5歳児)

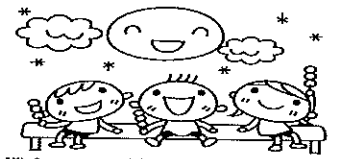
30日(金) 開園記念日



☆クラスだより☆

ほんび組(0歳児)

- <わらい>
 - ・身近なお年寄りとの触れ合いを喜ぶ
 - ・夏の疲れが出てくるので健康状態を把握してもらいながら生活リズムを整える
 - ・全身運動や探索活動を通して体をたくさん使って遊ぶことを楽しむ
- <家庭連携>
 - ・お父さんお母さんとたくさん触れ合えるようお子さんと触れ合い遊びを楽しみましょう
 - ・体調を崩しやすくなる時期なので健康状態を把握し、無理なく過ごせるように心掛けていきましょう
 - ・発達段階に応じた玩具や援助を行いながら体全身を使って遊べるようにしていきましょう



ひよこ組(1歳児)

- <わらい>
 - ・お年寄りとの触れ合いを楽しむ
 - ・走る、跳ぶなど体を動かして遊ぶ
- <家庭連携>
 - ・祖父母や近所のお年寄りの方と関わる機会をもち、触れ合いを楽しめるようにしましょう
 - ・子どもと一緒に体を動かし、遊ぶ楽しさを伝えましょう



ことい組(2歳児)

- <わらい>
 - ・お年寄りと関わる楽しさを知る
 - ・全身を使った遊びをのびのび楽しむ
- <家庭連携>
 - ・お年寄りの大切さ、関わる楽しさを味わえるようにお家で伝えて下さい
 - ・運動会の練習をしています。早寝、早起き、朝ごはんを心掛け、本番に備えましょう



こねこ組(3歳児)

- <わらい>
 - ・お年寄りとの触れ合いを喜び、労いの気持ちを持つ
 - ・運動会を楽しみに待ち、意欲的に練習に取り組む
- <家庭連携>
 - ・お年寄りと触れ合う機会を持ち、優しく関わることを知らせましょう
 - ・練習の様子を聞いてみたり、頑張っている姿を褒めてあげましょう



うさぎ組(4歳児)

- <わらい>
 - ・お年寄りの方々を大切にすることが育つ
 - ・安全な生活を送るためのルールや行動の仕方がわかる
- <家庭連携>
 - ・祖父母や地域の高齢者との触れ合う機会を作ってあげましょう
 - ・危険な行動をとったりした時などに注意だけでなく、なぜ危ないのかも知らせるようにしましょう

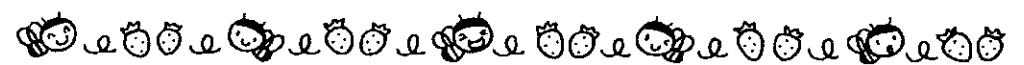
ひつじ(5歳児)

- <わらい>
 - ・お年寄りに親しみを持ち尊敬、労る心が育つ
 - ・運動会に向け、目標を持ち自分の役割を果たす
- <家庭連携>
 - ・お年寄りへの尊敬心や労いの気持ちが芽生えるよう祖父母や曾祖父母の昔の話し等をたくさんしてあげましょう
 - ・運動会の練習に対しての子ども達の疑問に共感し、励まし褒めてあげてください
- <給食室>
 - ・家族団らんでの食卓が難しくなっているようです。食卓の中は年長者からマナーや作法などを学ぶ大切な機会です。少しでも皆で食卓を囲む時間を作しましょう。



☆お父さんお母さんから☆

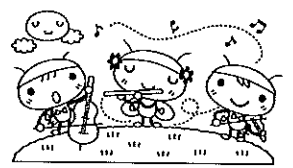
震災で東松島から引っ越してきて約5年が経ちました。カトリック保育園に来た時はまだ小さな赤ちゃんだった〇も今は立派なお姉ちゃん。先生方には、いっぱい迷惑をかけてしまいスイマセン。そしてありがとうございました。(ひつじ組 ○〇〇ちゃんのお母さん・〇〇〇〇さん)



8ヵ月頃よりカトリック保育園でお世話になりました。頼りになる先生方と明るく元気なお友だち、親切な父兄の方々に囲まれ楽しい保育園生活になりました。親子共々感謝の気持ちでいっぱいです。残りわずかな保育園生活も晴太にとってよいかけがえのない時間となるように、これからも見守ってきたいと思います。(ひつじ組 ○〇〇〇くんのお父さん・〇〇〇さん)

☆おしらせ☆

★岡部紗希保育士が産休に入りました。それに代わりひよこ組には阿部裕美保育士と佐藤しのぶ保育士が入ります。よろしくお願ひ致します。
★20日より仙台青葉学院短期大学から保育実習生が2名実習にきます。よろしくお願ひ致します。





あなたの一分間拝借！



9月のテーマは、「お年寄りを大切に作る心づくりに励みましょう！」

大切にすることは、互いに人格的存在であるということを確認し合い、尊敬し合い、いたわり合うことだと思います。お年寄りも、些細な事でも、例えば名前を呼ばれることにも、とても敏感で吃驚することがあるものです。呼び捨てにされたとか、「さん」づけで呼んでくれなかったことで一日中ひねくれている姿を見ると「老人は二度童(ニドワラベ)」となるということを出し自省させられるものです。又、子ども時代のことを思い出します。祖母が朝ごはんの準備をしている時、祖父の大きな声が聞こえてきたのです。「オイッ！オイッ！」祖母は返事をしません。二回、三回…ついに血相抱えて祖母に「爆弾」が炸裂する中、祖母は凜として返事をしたのです。「私はオイッではない、親から『おタツ』という名を頂いている」と。

まさに『名は、体を表す』です。軍配は祖母の上にあります。

特別養護老人ホームでの思い出もあります。

施設で介護する人を『寮母』といいます。寮母さん達の慈愛に満ちた介護如何で施設の信用が評価されると言われるほど寮母さんの言葉、介護する時の言葉だけでなく、自由時間の時でも、家に帰ってからでも、或いは家族同士でも言ってはならない言葉があることに目覚めて欲しいものです。どんな方でも人格をけなしたり、傷つけるような言葉は慎まなければと痛感させられたものです。例えばこんな会話を耳にしたことがあります。『ワツ臭い、良い香りにする「ウンチ」はないかしら！』『今取り替えたばかりなのに、また出たの！』『いつまで食べてるの、よくこぼすわね！』『年寄りなのに、よく食べるわね』『わがまま言わないでたべて！』『入浴時間中…少しぐらい熱くても我慢するのよ』『いつまで入ってるの、まだ濡れているから着てはだめ！』等々…お年寄りは孤独や不安と日々闘っております。施設だけでもなく家庭でも、また独居生活の方々にも、人格的配慮に満ちたケアを分かち合えるような人間性を育む9月の日々を過ごしましょう。特に最期のときにこそ、お年寄りを大切にすることが、私達の思いやりと愛によって証明されます。死、それは自分の人生を汚れない清き供え物として、愛である神に捧げる厳粛な瞬間であるということが出来ます。それだけにふさわしい自分を締めくくりとして、聖書の導きのもとに新しい自分になることが全ての人々に求められています。



高齢社会、核家族化等の今、聖書は両親との関わりについて次のように啓示しています。
旧約聖書シラ書3章12-14

子よ、年老いた父親の面倒を見よ。生きている間、彼を悲しませてはならない。たとえ、彼の物覚えが鈍くなっても思いやりの心 気持ちを持って。自分が活力にあふれているからといって、彼を軽蔑してはならない。主は、父親に対するお前の心遣いを忘れない。

箴言書23章22 シラ所3章16

父に聞き従え、生みの親である父に。母が年老いても、侮ってはならない。父を見捨てる者は神を冒瀆(ぼうとく)する者。同じく父母を怒らせる者は、主に呪われている者

両親を敬う義務は決して終わるものではありません。また親は子供を自分達の愛の果実としてだけ考えず、『神の賜物』と受け止めながら、成人するまで育成に励み、責任ある育児をしてこそ子供たちから尊ばれる存在となります。自分の思いのままに育てたり、自分の夢を子供の将来に期待して子供の人生に水をさすようなことをしないようにしましょう。子供が成人して結婚しても、親は依然として親であることに変わりはないのですから人生の先輩として家族に絆を深め、学び合うことが肝要と心得ます。

「茄子の花と親の意見は、千に一つのむだがない」という諺があります。

(茄子の花が必ず実を結ぶように、親の意見にも必ずえるところがある)

老いは誰にでもある。老いと正しい関わり方が、家族を豊かにし、あなたを永遠の命に導く！

カトリック古川教会 司祭 川井 啓

